

## 2018年度（平成30年度）社会福祉法人藤雪会 事業報告

### 法人本部

藤雪会は安心を支えます。

(1) 施設建設を進めました。

- ① 法人本部としては主に、役所への申請関係、設計・工事・地権者との契約関係さらに建設・地代等の資金繰りを担当しました。
- ② 一度に複数の施設建設が動いているので、混乱しないよう、本部職員を増員しました。
- ③ 保育園は建設補助の割合が高く、また、川崎市や藤沢市は福祉医療機構の借り入れに対し返済補助制度があります。介護事業も特養は建設補助の割合が高いですが、グループホームやデイサービスは補助制度がわずかです。これら建設支援制度の違いを理解したうえで、資金計画を立てました。全事業所の利用者が安心して利用でき、職員が安心して働ける経営を進めることができる法人運営に努力しました。

1. 川崎市の保育園ゆいまあむは、2018年4月1日開園しました。

建設の資金は、約半額の補助金に対して、返済補助がある福祉医療機構から制限まで借り入れ、残りを銀行から借り入れしました。しかし、設備費支出が予算を超えたため、銀行借り入れを増額しました。市有地利用で、当面地代が発生しないため、予算を超えた借入でも経営に問題は起きないと判断しました。

主な資金の内訳

	支出		収入	
建設工事費	191,052,000	建設等補助金	110,091,000	
設計費	6,750,000	福祉医療機構借入	80,300,000	239回（20年）
		川崎信金借入	20,000,000	80回（7年）
		みずほ借入	12,000,000	60回（5年）
合計	197,802,000	合計	222,391,000	残は、設備費用

2. 藤沢の保育園小さなほしは、職員たちが年末年始返上で引っ越し、2019年1月に新園開園しました。

地主が本体建設をし、藤雪会は入札で決定した業者が内装工事をする建て貸しで、藤雪会としては初めての経験でした。内装の費用は、返済補助がある福祉医療機構からの限度内の借り入れをし、残りは小さなほしの積立金で補いました。福祉医療機構の借り入れに、ケアセンターあさひの土地建物を担保にしました。

旧園舎は、賃貸契約に基づき一部撤去工事をしました。また、旧保育園開設時、改装費用の助成金を受けていましたが、藤沢市(国)から建物償却の残金の返済を求められ、助成金の半額強を返済しました。現在、まんまるも小さなほしもそらまめも、地主や建物本体のオーナーがいて、建設や内装の補助金を受けていますが、それぞれの契約は20年です。20年後、もし地主やオーナーが、賃貸契約を継続しないと申し入れてきたと

き、保育園の廃業だけでなく、建設補助金を建物償却残に沿って返済を求められることになります。驚きでした。

主な資金の内訳

	支出		収入	
内装工事費	102,200,000	補助金	24,000,000	
設計費	2,160,000	福祉医療機構借入	74,400,000	179回(15年)
旧園舎撤去費用	1,080,000			
助成金返済	11,732,197			
合計	117,172,197	合計	98,400,000	不足は自己資金

3. 川崎市のそらまめ保育園の移転および現保育園の分園化の工事が終わり、2019年4月の開園を無事迎えることになりました。登戸駅周辺という通勤に便利な場所なので、0・1歳児の希望が高く定員を超えて入園を受け入れました。

改装資金は川崎市の補助金を使ったあとの残金は銀行からの短期借りにしました。0歳児が多いことと、駅近くの利点で経営は問題ありませんが、藤雪会の保育園の中で一時保育もできない最も小さな保育園だったそらまめが、本園・分園合わせてもっとも定員の多い保育園になりました。まんまる保育園から保育士と厨房職員3人が異動し、事務職員も派遣し、川崎グループ総意で開園を支援しています。

資金の内訳

	支出		収入	
内装工事費	76,680,000	補助金	52,743,000	
設計費	3,042,000	きらぼし借入	30,000,000	84回(7年)
分園改修工事	1,155,600			
合計	770,997,600	合計	82,743,000	残は賃貸費用

4. あつぎポポロの建設が11月9日から始まり、下半期は設備の決定に迫られました。土地が狭いため、設計に時間がかかり、工事開始が大幅に遅れました。2019年2月末に工事終了、4月1日から開園予定です。

工事はまず文化財の発掘から始まりました。江戸時代の保護地域ということで発掘を依頼しましたが、発掘するに従い、室町時代、平安時代と続き最終的に竪穴住居跡も見つかりました。出費は莫大でしたが、歴史的に住みやすい地域と考え、プラス思考でこの地域をとらえることにしました。

市街地に特養を作ること、保育園とお年寄りの幼老施設をテーマで進めてきました。2018年度の建設費用は、高齢事業部の施設整備の積立金を取り崩して支払いました。来年度2019年11月に上棟予定でこの第2回目の建設費支払いは、法人全体の積立金の取り崩しと、2018年度の建設補助金で補う予定です。最終の建物引き渡し後の支払いは、短期の銀行借りに予定しています。この銀行借りに「あつぎポポロ」の土地建物の担保を求められ、理事会・評議員会決定後県の許可が必要です。

2018年度の主な資金の内訳

	支出		収入	
文化財発掘	14,882,400	個人借入(私募債)	24,500,000	5年後返済
建設工事費	229,000,000	高齢積立取り崩し	118,500,000	
設計費	39,466,022	おひさまっこ支出	43,300,000	
		高齢事業支出	27,000,000	
		障害児事業支出	10,000,000	
		本部支出	32,000,000	
		特養等補助金	32,401,000	2018年度分
		厚木市高齢補助金	10,730,000	同上
合計		保育園補助金	24,487,000	同上
	283,348,422		313,918,000	残は19年度支払

5. 上半期の事業報告に記した横浜の高齢事業所準備と川崎の保育園土地探しは、新年度計画に記したように中止としました。

横浜のポポロ中山は、2019年度いっぱいまで廃業とすることに決定しました。

(2) リスクマネジメント対策

- 子ども事業部、高齢事業部、さらに個々の事業所で研修に力を入れました。事故が多かったおひさまっこ保育園は、保育園 ViVi の園長が異動し、ViVi は若手の主任が園長に昇格しました。
- 昨年・1 昨年の 2 年続けて、戸室事業所でインフルエンザが広がり、デイサービスを一時期閉鎖しましたが、今年、患者は発症しましたが、経験を生かして速やかに適切な対応を実施し、広がることを防ぐことができました。ただし、事業閉鎖を迫られることない保育園では、多くの保育園で子どもも職員もインフルエンザがひろがりました。高齢事業所の経験を保育園でも生かす必要がありそうです。

(3) 新しい職員対応に向き合いました。

- 現在、人手不足が社会全体の課題ですが、福祉は特に不足し、中でも夜勤者不足は多くの介護施設で施設の一部を閉じるという事態にもなっています。藤雪会もこの理由でポポロ中山を廃業することに決定しました。夜勤者問題以外でも、子どもも高齢事業部も人の命を預かるしごとであり、働く意欲だけでは勤まるものではありません。研修で指導するのは当然ですが、個人の資質を考えると限度があります。

今年度は、子ども事業部で数人の正職者に仕事を変わっていただくようお願いをしました。非常勤者にも雇用継続しないことを 2 人伝えました。社労士さんと協力して、できるだけ穏便に、次の仕事が見つかるように手を尽くしましたが、トラブルにつながった事例もあります。保育園の場合、若い職員なので、親が疑問をもって出向いてきたことが

あります。期限のある非常勤者に継続しないことを伝えたら、労働紛争あっせんに持ち込まれた事例がありました。あっせんに真摯に対応した結果、その場で解決しましたが、藤雪会 25 年の歴史で職員の親から問われたり、あっせんに持ち込まれたのははじめてです。

働き方改革がすすみ、労働者権利意識も高くなっています。今まで、利用者に対するリスクマネジメントが中心でしたが、今後は、職員研修により以上に取り組み、労働者対策のリスクマネジメントにも心配る必要があります。新年度は施設長研修に組み入れます。

2. 相変わらず職員の出入りは多いです。昨年度と比較してみました。

今年は、そらまめ保育園が結婚や出産育児・介護で退職した元職員に声掛けして戻ってきてくれました。ケアセンターあさひでも出産・夫の海外勤務などの元職員が 3 人戻ってきました。職員募集に頭を悩ます施設長たちにはうれしい情報でした。

昨年との比較の表を添付します。

2018年度 職員採用・退職者数 集計										
施設名	採用				退職				今年度年間増減	
	常勤		非常勤		常勤		非常勤		常勤	非常勤
	2018	昨年度	2018	昨年度	2018	昨年度	2018	昨年度		
厚木南地域包括	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
あさひ	1	3	7	4	2	1	6	3	-1	1
戸室	0	1	11	10	0	3	7	7	0	4
本厚木	1	0	5	5	2	0	5	6	-1	0
中山	0	0	1	7	0	0	0	7	0	1
市ヶ尾	0	0	2	0	0	0	1	1	0	1
緑	0	0	2	9	0	2	5	9	0	-3
<b>高齢事業部計</b>	<b>2</b>	<b>6</b>	<b>28</b>	<b>35</b>	<b>4</b>	<b>6</b>	<b>24</b>	<b>33</b>	<b>-2</b>	<b>4</b>
まんまる	2	3	0	0	1	1	0	0	1	0
ViVi	1	5	2	1	2	0	0	1	-1	2
おひさまっこ	3	1	6	1	3	2	3	0	0	3
そらまめ	5	0	6	2	0	0	1	0	5	5
もものか	2	0	1	1	3	3	1	3	-1	0
せせらぎ	0	1	1	1	1	0	3	0	1	-2
小さなほし	3	2	6	0	2	2	2	2	1	4
ゆいまあむ	0		1		0		2		0	-1
とんとん	0	1	4	1	0	1	2	2	0	2
<b>子ども事業部計</b>	<b>16</b>	<b>13</b>	<b>27</b>	<b>7</b>	<b>12</b>	<b>9</b>	<b>14</b>	<b>8</b>	<b>6</b>	<b>13</b>
<b>法人計</b>	<b>18</b>	<b>19</b>	<b>55</b>	<b>42</b>	<b>16</b>	<b>15</b>	<b>38</b>	<b>41</b>	<b>4</b>	<b>17</b>

### 3. 外国人の受け入れを進めました。

人手不足、夜勤者不足の介護事業所対策として、外国人、特にベトナム人の受け入れを決定しました。中間業者は銀行からの紹介で、経験のある事業者でしたが、やはり現地に行って確認すべきと考え、面接に出向き、3人の雇用を決定しました。今後は、高齢事業部で受け入れ準備を進めます。

( 報告者 理事長 又木京子)

## 高齢事業部

### 老いへの不安、藤雪会は安心を支えます

- (1) 利用者にとって最善のサービスを提供できるよう、地域の居宅介護事業所、包括支援センター、事業所間の連携を大切にしました。

20年来、有料老人ホーム事業に先駆者として取り組み、夜勤の複数体制、生活支援など手厚い介護を提供してきましたが、職員不足、入居者減など事業のありようを考える1年となりました。デイサービスは利用者が伸び悩みましたが、どの施設も加算算定を積極的に進めています。グループホームは年間を通じ安定して推移しました。小規模多機能型居宅介護は「ガーデンハウスもも」「ゆったり」とも登録が20～23名でしたが、常勤数により収支の開きが出ました。

あさひの居宅介護支援は常勤が増えケアプラン数が増えました。中山の居宅は例年、予防の方を多く受け入れています。

- (2) あつぎポポロの施設づくりに本格的に取り組みました。基礎工事が終了し、外壁や床材、ナースコール、セキュリティシステム、機械浴槽などほぼ決まりました。リーダー人事を決定し、今後は常勤、非常勤と面接し適材適所の人員配置を行います。
- (3) 法人研修は、新人研修、中堅研修を組み、対象者は意欲的に取り組みました。
- (4) 事故ゼロ運動に引き続き取り組みました。車両事故や介護事故に、その都度丁寧に対応しました。受診に付き添ったり、ご家族への説明をしっかりと行いましたが、ご家族が施設賠償保険では納得されず、顧問弁護士対応となった事例があります。
- (5) それぞれの事業所で、地域に向けたミニデイサービス支援、カフェを定期的に開催し、地域の方に喜ばれています。
- (6) 厚木市委託の配食サービスが2月で終了しましたが、引き続き地域貢献事業として独自の食事サービスを行っています。調理員不足が続き、食材やメニューを工夫していく必要があります。
- (7) 職員不足に苦慮しましたが、幸いなことに退職後に再入職する職員が複数いました。

## 子ども事業部

生きる根っこの0歳から6歳。藤雪会は、育ちを支えます。

### 1. 開園・移転

1) 2018年4月1日、法人としては8か所目となる「保育園ゆいまあむ」を川崎市高津区末長に開園しました。定員60人のところ当初は40人でのスタート、転出転入もあり落ち着かない状況でしたが下半期で0歳児を定員より1人多く受け入れ事業の安定化を図りました。一時保育事業は、利用人数の拡大など次年度に繋げていきます。

2) 2019年1月4日「保育園小さなほし」が定員を5人増員し新築の保育園へ移転しました。園長はじめ職員が設計の段階から参加、建設中は園児と共に園外保育で見に行くなど全員で新しい園舎での生活を心待ちしていました。移転後は、新しい園舎で充実した保育に取り組んでいます。

3) おひさまっこ保育園は、「厚木ポポロ」の中で60人定員の認可保育園としての開園準備を進めました。今後は、先行している複合施設の見学等を行ない、具体的に準備を進める予定です。

4) そらまめ保育園は、川崎市との協議で2019年度4月に分園(20人)・本園(70人)合わせて定員90人の保育園としてスタートできるよう準備を進めました。一番の懸案事項である保育士募集についてはハローワークなどの活用は基より現職員が地域へのチラシ撒き、友人知人への粘り強い働きかけを行ないました。そらまめ保育園での在職経験のある職員採用に繋がりました。また、川崎市などが主催する「お仕事相談会」への参加や保育士養成機関への協力も採用につながりました。今後は、分園、本園の2ヶ所での保育になり、さらに、本園は3階に分かれての保育となります。職員同士の連携が最大の課題です。課題解決に向けて組織づくりに取り組めるよう子ども事業部としてもサポートしていきます。

### 2. 事業

1) 各事業所では、通常保育、一時保育、障がい児保育、休日保育等の事業を通して「子育て・子育ち」を応援しました。ダイルーム「とんとん」では、他施設での受け入れが困難な児童の受け入れを行なったことで課題を明らかにしました。

2) 一時保育事業では、「もものか保育園」「せせらぎ保育園」をはじめ複数の保育園で保育士不足により定員の受け入れに届きませんでした。「せせらぎ保育園」は、一時保育事業を今年度で終了することを決めました。通常保育の運営との調整は必要ですが

子育てに疲れた親や養育に課題のある家庭のセイフティネットとして機能できるよう今後も努力します。

3) 各事業所は、子育て相談、子育て応援講座、施設の地域開放、親子サロンなどを開催し、地域福祉へ貢献しました。

### 3. 職員の資質向上・安全管理

1) 法人主催の新人研修への参加、各事業所では、職員の業務への取り組み姿勢の向上やスキルアップを図る研修に努力しました。

2) また、施設長としての業務のひとつである労務管理に関する意識の向上や組織運営への取り組みのスキルアップ、リスクマネジメントが図れるよう施設長連絡会の場を有効に活用できるよう取り組んできました。

3) ヒヤリハットの集積を続け、事故を未然に防ぐリスクマネジメントの研修に取り組みました。残念なことに、受診事故が多かった保育園もあり法人としての対策が必要とされました。

(報告者 子ども事業部長 佐藤洋子)